

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマートキッズソリス行徳		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 6日		2026年 1月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年 12月 3日		2025年 12月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 4日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの発達段階や特性に応じた支援を行い、安心して通所できる環境が整っている。	・活動の流れを一定にし、見通しを持ちやすい支援を行っている ・不安が強い子どもには声かけや環境調整を行い、落ち着いて過ごせるよう配慮している	・登室時の様子や気になる変化を職員間で共有し、その日の支援内容や関わり方を調整する ・安心して参加できる環境づくりを継続的に見直す
2	・保護者との日常的な関わりを通じて、信頼関係を築きながら支援を行っている。	・個別支援計画の内容を職員間で共有し、活動が計画に沿うよう意識して支援している ・支援後の振り返りを行い、必要に応じて支援方法を調整している	・活動ごとに「どの支援目標につながるか」を職員が意識して支援にあたる ・支援計画と日々の活動とのつながりを職員間で確認する機会を設ける
3	・日常的なやり取りを通じて、保護者との信頼関係を築きながら支援を行っている。	・支援後のフィードバック時に、子どもの様子や活動内容を口頭で伝えている ・必要に応じて家族支援相を案内し相談、助言を行っている	・短時間でも「活動のねらい」「子どもの反応」のいずれかを必ず伝えるよう意識する ・個別の説明が必要な場合は、家族支援相談につなげる流れを明確にする

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・災害対応の保護者周知が不十分。 訓練は実施しているが、その内容や安全計画が保護者に十分伝わっているとは言い切れない。	・訓練内容についてはフィードバック時に口頭で伝えているが、説明がその場限りになりやすい。	・避難訓練の実施前には廊下掲示等で予定を周知し、実施後には訓練内容やねらい、子どもの様子を掲示するなど、実施前後の情報を見える形で共有する。 ・フィードバック時の口頭説明と併せて、保護者が後から確認できる環境を整備する。

2	<p>・家族支援プログラムや相談の機会があることが、十分に周知されていない。</p>	<p>・支援が希望制となっており、案内が限定的になっているため</p>	<p>・フィードバック時や掲示等で、家族支援の利用について定期的に案内する          ・保護者会等の場を活用し、相談や情報提供の機会を周知する</p>
3	<p>・保護者会を実施しているものの、参加状況や交流の深まりに差がある。</p>	<p>・開催方法やテーマ設定が、保護者のニーズや生活状況に十分合っていない可能性がある。</p>	<p>・短時間開催やオンライン併用、テーマ別交流会など参加しやすい形を検討し、「相談しやすい・つながりやすい」環境づくりを進める。</p>

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	スマートキッズソリス行徳
------	--------------

公表日 2026年 3月 20日

利用児童数 9

回収数 8

	チェック項目	はい	どちらとも いえなし	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	2		1	・小集団活動がメインなので、もう少しお部屋が広くてもいいかなと思います	・不要物品の整理・配置換えを行い、活動に必要なスペースを確保することで、子どもがより安全かつ落ち着いて活動できる環境となるよう改善を図った。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1	1	1	・職員の人数が少ない ・児発と放デイの先生が分かれている方が望ましい	・一体型多機能教室の為、職員は児発・放デイを兼務する体制となっている。 ・時間帯や利用児の状況に応じた職員配置の工夫や役割分担の明確化を行い、安心して利用できる支援体制の維持・向上に努めている。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	2					活動スペースや動線の整理、視覚的な表示や掲示物の工夫等を行い、子ども一人ひとりの特性に応じて、より分かりやすく安心して過ごせる環境づくりに努めている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5	4				・手を洗う場所がもう少し清潔感があると望ましい ・清掃箇所・頻度・担当者を明確にしたチェック表を作成し、毎日の清掃および消毒を実施する。 ・活動前後に室内環境を確認し、活動内容に応じて机や教材の配置を見直すことで、子どもが心地よく過ごせる環境整備に取り組む。	
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7	1		1		・支援後のフィードバックでは活動内容やねらい、子どもの様子を伝えているが十分でない場合もあるため、今後は短時間で支援の目的や子どもの変化、今後の方針のいずれかを必ず伝え、専門性が伝わるよう改善していく。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					・支援プログラムと実際の支援内容のつながりが分かるよう、フィードバック時に引き続き、支援のねらいを伝えていく。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	8	1				計画作成・見直し時に、支援のねらいや課題との関係を具体的に説明し、内容が伝わるよう工夫していく。	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8				1	・支援計画の説明時に、本人支援・家族支援・移行支援の視点を踏まえた支援内容を具体的に伝え、保護者に分かりやすく説明していく。	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8	1				・児童発達支援計画に基づき、当日の活動がどのような支援目標に関係するかを、全体的なねらいとして必ず共有する。 ・個別の目標との関係については、必要に応じて家族支援相談等で個別に説明する機会を設けていく。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7	1		1		月に活動のねらいや内容を夏直し、同じ活動でも目的や関わり方を変える工夫を行う。また、活動内容とねらいをフィードバック時に簡単に伝えることで、固定化していないことが保護者にも分かるようにしていく。	
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2	7				交流の機会が少ないなどの意見を踏まえ、子どもの特性や安全面に配慮しつつ、地域資源の活用や外出活動の中で、地域と接点を持つ機会を検討していく。	
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					・利用開始時に運営規程や支援内容、利用者負担について説明を行っているが、今後も説明内容の統一を図り、分かりやすく伝えることで、保護者が安心して利用できるよう継続して取り組んでいく。		
13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					・児童発達支援計画を示しながら支援内容を説明する対応を継続し、今後も分かりやすい言葉での説明や必要に応じた個別の補足説明を行っている。		
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	2			3	家族支援に関する取組や外部研修の情報提供が十分に伝わっていないため、今後はフィードバック時や掲示等を通じて定期的に案内し、保護者が必要に応じて活用できるよう周知を強化していく。		



公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 スマートキッズソリス行徳

公表日 2026年 3月 20日

利用児童数 9 回収数 8

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
29	事業所の支援に満足していますか。	7	1		1		発達段階に応じて課題内容や関わり方を調整し、子どもが安心して取り組める支援を行っていく。

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	スマートキッズソリス行徳				公表日	2026年 3月 20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工作や机上活動については、活動内容に応じて机や配置を調整し、利用定員内で安全に取り絡めるスペースを確保している。</li> <li>・運動活動時には、活動前に危険となりやすい物の移動や片付けを行い、可能な範囲で安全な動線を確保している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容によっては、現在のスペースでは十分な運動量や安全距離を確保しにくい場面があるため、人数調整や活動の分散化をより意識する必要がある。</li> <li>・今後は、運動活動時の利用人数の調整、活動時間の分割、スペースの使い分け等を検討し、より安全な支援環境の確保を図っていく必要がある。</li> </ul>
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の特性やその目的の状態を踏まえ、支援の質や安全性を確保できるよう、利用人数の調整を行っている。</li> <li>・職員配置数とのバランスを考慮し、必要に応じて利用日の振替案内を行うことで、対応可能な人数での支援体制を整えている。</li> </ul>	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内環境については、構造上の制約がある中でも、掲示物や物品を最小限にし、刺激を抑えたシンプルな環境づくりを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の切り替えや場所の意味が、すべての児童にとっで分かりやすい構造化になっているとは言え切れず、職員の声かけに頼る場面が多い。</li> </ul>
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、清掃箇所や頻度の見直し、職員間での役割分担の明確化等を行い、より安定して清潔な環境を維持できる体制づくりが必要である。</li> </ul>
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの情緒が不安定になった際には、状況に応じて個室へ誘導し、落ち着いて過ごせる環境を確保している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個室の使用基準や対応手順について、職員ごとの判断に委ねられている部分があり、対応の統一が十分でない場面がある。</li> <li>・同時に複数のこどもへの個別対応が必要となった場合、個室や人員の確保が難しくなる可能性がある。</li> </ul>
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務前ミーティングにおいて、当日入室する児童について前回の支援内容や様子の振り返りを行い、職員間で情報共有している。</li> <li>・共有した内容をもとに、その日の関わり方や配慮点を確認し、支援に反映させることで、日々の支援改善につなげている。</li> </ul>	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・回収したアンケート内容については、適宜職員間で振り返りを行い、支援や対応の中で意識するよう努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施可能な内容と困難な内容を整理し、対応方針や検討状況を共有するなど、より計画的に業務改善へつなげていく必要がある。</li> </ul>
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の進め方や児童対応に関する意見をその場で出し合い、可能な内容については業務に反映している。</li> <li>・職員同士が意見を出しやすい雰囲気づくりを意識し、業務改善につながる気づきを共有できる体制を整えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間の中では、すべての意見について十分な検討や振り返りが行えないことがある。今後は、意見や改善内容を簡潔に整理し、継続的な業務改善につなげていく仕組みづくりが求められる。</li> </ul>
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部評価で示された改善点について、具体的な対応計画や進捗の確認が十分に行えていない部分がある。</li> <li>・今後は、外部評価の結果をもとに改善項目を整理し、対応状況を共有・振り返る仕組みを整えることで、より計画的な業務改善につなげていく必要がある。</li> </ul>
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の資質向上を目的として、支援内容や虐待防止等に関する研修を会社内で定期的実施している。</li> </ul>	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・月ごとの支援プログラムを作成し、廊下に掲示することで、職員および保護者が内容を確認できるようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示による周知が中心となっており、支援プログラムの目的やねらいが十分に伝わっていない場合がある。</li> <li>・今後は、掲示内容を活用した説明の機会を設け、支援プログラムがより実践と結びつくよう工夫していく必要がある。</li> </ul>
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々のアセスメントを行い、ニーズや課題を踏まえて児童発達支援計画を作成している。</li> <li>・集団活動を中心とした支援の中でも、各児童の個別目標に関わる点については指導員同士で意識を共有し、支援に反映するよう努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援形態が集団活動中心であるため、個別目標に対する関わりや達成状況の確認が十分に行えない場合がある。</li> </ul>
13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援計画の作成にあたっては、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が業務前ミーティングを通して意見を共有している。</li> <li>・日々の支援での気づきや児童の様子をもとに、職員間で共通理解を図り、こどもの最善の利益を考慮した検討を行っている。</li> </ul>		
14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティングでは、児童ごとの支援目標や配慮点を確認し、計画に沿った関わりができるよう共通理解を図っている。</li> <li>・日々の支援の中で計画を意識し、支援内容が計画から逸れないよう職員同士で声を掛け合いながら対応している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有は主に業務前ミーティングで行っているため、今後はより多様な方法で確認できる工夫の余地がある。</li> </ul>	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2			・標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントについては、実施の頻度や活用方法にはばらつきがあり、十分に活用できていない場面がある。今後は、フォーマル・インフォーマル双方のアセスメントをバランスよく活用できるよう、方法や視点の共有を進め、より客観的な把握につなげていくことが望まれる。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3			・こどもの発達状況や生活背景、保護者の意向等を考慮し、支援に必要な項目を設定した上で、具体的な支援内容を計画に反映している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2			・職員の状態等により、立案の段階で全員が参加できない場合があり、意見の集約に差が生じることがある。今後は、情報共有の方法を工夫するなど、より多くの職員が立案に関わる仕組みづくりを検討していくことが望まれる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3			・あらかじめ集団のスケジュールを立てる中でも、活動の進め方や関わり方を工夫し、児童の反応に応じた支援を行っている。 ・日々の支援の振り返りを次の活動に活かし、必要に応じて内容や方法を見直している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3			・集団活動の中でも、子ども一人ひとりの目標や配慮点を意識し、関わり方や声かけを工夫して支援を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3			・ミーティングで確認した内容をもとに、職員同士が連携しながらチームで支援を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3			・支援終了後に職員間で振り返りを行い、気付いた点や改善点を共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3			・記録をもとに支援の振り返りを行い、次の支援内容や関わり方の見直しに活かしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3			・保護者からの意見や家庭での様子も踏まえ、計画内容に反映するよう努めている。
関係機関や保護者との	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3			・児童発達支援管理責任者がサービス担当者会議や関係機関との会議に参加し、日頃の支援内容やこどもの状況を踏まえた情報共有を行っている。 ・会議で得られた情報や意見を、職員間で共有し、日々の支援に反映している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1	1		・必要に応じて、保健・医療機関や障害福祉、保育・教育機関と情報共有を行い、連携した支援につなげている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3			・児童発達支援管理責任者を中心に、関係機関との連携内容を支援に反映させるよう努めている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	2		・就学を見据え、保護者からの聞き取りや日々の支援記録を通して、児童の特性や配慮点を整理するよう努めている。 ・児童発達支援管理責任者を中心に、就学後を意識した支援内容や関わり方について、職員間で共有を行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				・連携の方法や情報共有のタイミングについて、より分かりやすく整理していく余地がある。 ・移行支援に関する取り組みを、職員間でより具体的に共有し、支援の一貫性を高めていくことが今後の課題である。
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				・小学校や特別支援学校(小学部)との直接的な情報共有の機会が限られているため、連携の在り方を検討していく必要がある。	

連携	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		3		・地域の児童発達支援センターとの連携や、外部からのスーパーバイズ・助言を受ける機会は十分に確保できていない。 ・今後は、必要に応じて外部機関と連携し、専門的な助言を支援の質向上に活かしていく体制づくりを検討していく必要がある。
	32	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。		3		・現在は、保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、地域の子どもと共に活動する具体的な機会は設けられていない。 ・今後は、見学や行事参加、短時間の交流など、児童の負担が少ない形から地域交流の方法を検討していく必要がある。
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3			・支援後のフィードバック時に、児童の様子や取り組みについて保護者へ情報共有を行っている。 ・保護者から希望があった場合には、家族支援相談の時間を設け、発達の状況や課題について丁寧に話し合う機会を確保している。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	1		・ペアレント・トレーニング等の体系的な家族支援プログラムや、保護者が参加できる研修の機会は十分に確保できていない。 ・今後は、情報提供の方法や内容を整理し、家庭でも活かしやすい支援や学びの機会について検討していくことが課題である。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3			・利用開始時に、運営規程や支援プログラム、利用者負担等について書面を用いながら丁寧な説明を心がけている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3			・児童発達支援計画の作成時に、保護者との面談や日常のやり取りを通して、家族の意向や希望を確認している。 ・子どもの様子や気持ちを日々の支援の中で丁寧に汲み取り、子どもの最善の利益を意識した計画作成に努めている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3			・児童発達支援計画を保護者に示しながら、支援のねらいや内容について丁寧に説明を行っている。 ・不明点や質問があった際にはその都度確認し、保護者の理解と同意を得た上で計画を進めている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3			・保護者からの相談に対して、面談や日常のやり取りを通して、子育ての悩みや不安に丁寧に応じている。 ・必要に応じて相談の機会を設け、家庭での関わり方や対応方法について助言を行っている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3			・年に1回以上、保護者会を開催し、保護者同士が交流できる機会を設けている。 ・参加状況や交流の深まりにばらつきが見られるため、保護者が参加しやすく、有意義と感じられる内容について検討していく必要がある。 ・開催方法やテーマ設定を工夫し、交流の目的や内容がより分かりやすくなるよう改善していくことが課題である。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			・日常のやり取りや面談を通して、保護者が相談しやすい雰囲気づくりを心がけている。 ・相談や申入れがあった際には、内容を確認し、できるだけ迅速かつ適切に対応できるよう努めている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	1	1		・ブログや通信等による定期的な情報発信が十分に行えていないため、発信方法や更新体制について見直しが必要である。 ・今後は、更新頻度や内容を整理し、無理のない形で継続的に情報発信が行える仕組みづくりを検討していくことが課題である。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3			・個人情報の取扱いについて、職員間で共通認識を持ち、日常業務の中で十分に配慮している。 ・書類の保管場所や管理方法を定め、第三者の目に触れないよう徹底している。 ・口頭での情報共有においても、場所や相手に配慮し、必要最小限の情報共有に留めている。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3			・子どもの発達特性や理解力に応じて、言葉の選び方や伝え方を工夫し、視覚的支援や具体的な例を用いながら説明している。 ・現状を継続しつつ、より多様な特性やニーズに対応できるよう、意思疎通や情報伝達に関する知識・技術の向上を図る必要がある。 ・職員間で有効な伝達方法や工夫事例を共有し、支援の質にばらつきが出ないように引き続き取り組んでいく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。			3	・現在は、地域住民を招いた行事や交流の機会を設けるまでに至っていない。 ・今後は、感染症対策や個人情報・安全面に配慮した上で、無理のない形で地域との関わりを持つ方法(見学受入れ、地域行事への限定的参加等)について検討していく必要がある。

非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応等について、それぞれマニュアルを整備し、職員が確認できる体制を整えている。</li> <li>感染症対応や事故発生時を想定した研修・訓練を実施し、具体的な対応手順を職員間で共有している。</li> </ul>	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務継続計画(BCP)を策定し、非常災害時の事業継続や職員の役割分担について整理している。</li> <li>地震や火災等を想定した避難訓練を定期的に行い、子どもを安全に誘導する手順や避難経路の確認を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCPの内容について、実際の行動に結びつける理解をより深めるため、定期的な読み合わせや簡易訓練の実施が必要である。</li> <li>今後は、保護者への情報共有方法や引き渡し対応を含めた訓練も取り入れ、より実践的な備えにつなげていくことが課題である。</li> </ul>
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調変化や服薬内容に変更があった際には、保護者からの連絡を受けて随時情報を更新する体制を整えている。</li> </ul>	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギーに関する情報は申し送り等に反映し、関わる職員間で共有することで、誤食や事故の防止に努めている。</li> <li>おやつや食事を提供する際には、個別の配慮が必要な子どもを事前に把握し、提供内容や声かけに注意して対応している。</li> </ul>	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全計画を作成し、事故防止や緊急時対応、感染症対策等について職員が共通理解を持てるよう、研修や訓練を定期的に行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全計画や研修内容を、日々の支援場面により確実に結び付けられるよう、定期的な振り返りの機会を設ける必要がある。</li> <li>職員間で安全管理に関する理解や実践に差が生じないよう、具体的な事例を用いた共有方法を工夫していくことが課題である。</li> </ul>
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が必要な情報をいつでも確認できるよう、周知のタイミングや方法を整理し、継続的に情報提供できる体制づくりが課題である。</li> </ul>
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリハットが発生した際には、記録を残し、職員間で情報共有を行っている。</li> <li>共有した内容については、ミーティング等で状況や背景を確認し、支援方法や環境面の見直しにつなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例の蓄積や振り返りをより活かせるよう、定期的な確認する機会を設けることが課題である。</li> <li>再発防止策について、対応後の効果検証や継続的な見直しを行える仕組みづくりが今後の検討点である。</li> </ul>
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待防止委員会の研修に全職員が参加し、共通理解を図っている。</li> <li>当事業所の児童を想定した事例検討を行い、具体的な支援場面に即した学びにつなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修内容を日々の支援に継続して活かすため、簡単な振り返りや共有の機会を設けていく必要がある。</li> </ul>
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体拘束が必要となる場合の基準を職員間で共有し、保護者に説明・同意を得た上で支援計画に記載している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体拘束に至らない支援方法について、具体例の共有や振り返りを行い、より予防的な支援の充実を図っていく必要がある。</li> </ul>	